

Cots多文化教室2024

多文化共生のアウトライン

Cots代表理事 西村 明夫

1

⑤ みんなで議論したいと思ったから

・多文化共生に関する議論の出発点:「社会承認」「公共」

→ アーレント「公共とは自らの行為・意見に他者から応答があること、他者から見られ他者に聞かれるという経験」(斎藤)

⇒ 孤独な人、見捨てられた人、社会から存在が見えなくなっている人、それを自身で当然と思っている人、そういった人々を生み出さない政策とはどのようなものか

Copyright Cots

4

一般社団法人日本公共通訳支援協会(Cots)

○ ミッション

・公的機関等の業務に関する通訳支援活動を行います。

○ 医療通訳活動のサポート

・地域に合った医療通訳システムの構築を支援します。

・地域に合った医療通訳に関する研修プログラムの作成を支援します。

・『医療通訳学習テキスト』、『医療通訳学習ハンドブック』などの研修教材を作成します。

・医療研修の講師の選定、確保調整を行います。

○ 学校通訳活動のサポート

・公立高校、公立特別支援学校の通訳者を対象にした研修を支援します。

・『学校通訳学習テキスト』など、研修教材を作成します。

○ 遠隔通訳活動のサポート

・遠隔通訳のあり方を考えるフォーラムを開催します。

Copyright Cots

2

2. 学びのレベルはどの程度か

① 事実関係と課題提起を重視

② 「抑制的な批判」の視点

③ データ・統計は省略

④ 支援に必要な基本的知識を「浅く・広く」

⑤ ただし、限界あり(講師面、時間面、経費面)

★「災害」と「日本語教育」分野は省略

★当事者の話や支援現場の実態は登場しない…

(ほかで多数の講座・セミナーあり)

★神奈川の取り組みが多くなる…

⑥ 質問は基礎的なことを優先

Copyright Cots

5

■ 多文化教室の趣旨

1. なぜ開講したのか

① 在住外国人の支援には知識が必要

② めざしたい方向に向かうには知識が必要

③ 幅広い知識があれば、多様な場面の支援に役立つ

④ 今の多文化共生の問題・課題を的確にとらえられる

⇒ 当事者の声を聴く講座や1分野に関する講座は多いが、網羅的(体系的)な「学びの機会」は少ない

Copyright Cots

3

■ 全国の在住外国人の在住類型

① 在日コリアン集住型 → 大阪鶴橋、川崎桜本

② インドシナ難民定住型 → 難民定住促進C近隣

③ 農村国際結婚型 → 東北地方

④ 大都市多様型 → 東京、大阪、横浜…

⑤ 製造業労働力型 → 北関東、東海…

⑥ 中国帰国者集住型 → 公営の住宅団地

⑦ 研究・情報系企業型 → ICT企業地域…

⑧ 福祉介護人材型 → 各地域の福祉施設

⑨ 技能実習型 → 各地の建設、製造業、農水産業

⑩ 留学生居住型 → 大学・日本語学校立地地域

⑪ 外国料理コック型 → 中華料理、インドネシア料理の店

Copyright Cots

6

■ 用語の定義

1. 用語を定義する意味

- ① 用語の様々な解釈(意味)のうち、ここで使用する場合の範囲の確定
- ② コミュニケーション(話の理解)のずれの防止
- ③ キーワードやよく登場する用語の意味の明確化

Copyright Cote 7

■ 多文化共生の考え方

1. 同化

- ① 異なる文化の自然消滅(メルティング・ポッド、融合)
- ② 異なる文化への社会承認なし

2. 統合

- ① 異なる文化への社会承認あり
- ② ホスト社会への包摂(ホスト社会のことを学ぶ)

3. リベラル志向 ⇒ 自力で生活を

Copyright Cote 10

2. 「多文化共生」の定義

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」

⇒ 文化のちがいを尊重、社会的に承認し、ともにいきいきと暮らしていくこと

Copyright Cote 8

4. 多文化志向

- ① 異なる者は異なったままで生活(サラダボウル)
⇒ 分断の可能性あり
- ② ホスト社会からの不十分な社会承認

5. 共同体の価値観重視

- ① 人は共同体の中で文化が培われる
- ② エスニック・コミュニティ等を重視

Copyright Cote 11

3. 「移民」の定義

- ① 広義: 1年以上在住の外国籍者、在住の外国につながる人(2世、3世、日本国籍者～帰国予定の人も)
 - ② 狭義: 永住者・定住者(デニズン)、国籍取得者
⇒ 広義を採用: 今の生活の拠点が日本か本国・母国か
- ★ 政府が「日本は移民国家ではない」と言うときの「移民」とは？

4. 1世、2世、3世の特徴

- ★ 2世、3世には在日コリアンとほかの移民の間に違いあり

Copyright Cote 9

6. 従来の地域文化との共存志向

- ① 異なる文化の尊重は強調されすぎてはいけない
- ② ホスト社会の伝統、文化を軽視しない
- ③ 文化が時代とともに変化する中で、将来的な共存関係を構築

[参考]

- ・国家とは: 強制力・暴力・武力の行使を認められた唯一の存在
- ・国民とは: 領土内に住む国家の構成員(外国籍は排除)
- ・外国籍への国家の権限: 国家の主権的決定事項(ただし国際法や条約による制限あり)

Copyright Cote 12

■ 多文化共生の難しさ

1. 壁の存在

- ① 文化のちがいがい
- ② 日本語の不十分さ
- ③ 収入の不安定さ

2. 普遍的な人権・価値観への挑戦

- ① 基本的人権は欧米の価値観で形成
- ② 基本的人権に反する文化も尊重すべきか

Copyright Cote 13

3. 現実生活での難しさ

- ① ホスト側の人とのあつれきのリスク
- ② 治安への懸念、漠然とした不安

4. 愛国心や伝統文化への揺らぎに対する懸念

Copyright Cote 14